

# 消化器センター 入局説明会

昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

高野洋次郎

# 経歴

出身は山梨県甲府市

平成27年3月 杏林大学医学部 卒業

平成27年4月 昭和大学横浜市北部病院にて初期臨床研修

平成29年4月 昭和大学横浜市北部病院  
消化器センター入局

## 入局の理由

学生時代から消化器に興味があった。

実習を重ねていく上で、外科系に進みたいと思い消化器外科を志望した。

初期研修での2年間で内科、外科問わずセンターの雰囲気良さ、指導の内容の良さが決め手となった。

専門医制度に必要な症例はほとんど北部で経験できます  
(呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺/甲状腺外科)

# 横浜市北部病院消化器センター

## ◆外科ローテート

➡現在は1チームで消化管、肝胆膵全症例を見ている。

多岐に渡り、症例を経験できます。

希望をすれば内視鏡の研修も可能です。

## ◆外勤は平均週1～2回。

➡クリニックで外来,内視鏡(上部),当直バイト(千曲、角館)

お給料は暮らしていくのに全く問題ありません。

# 1週間のスケジュール

月	手術、症例検討会
火	合同カンファレンス, 外来
水	外科カンファレンス、手術
木	手術
金	手術
土	病棟業務、外来、手術、内視鏡(上部)
日(午前)	当番で回診

# ここがいいよ消化器センター

症例数の多さ(特に消化管)

救急疾患(虫垂炎、胆嚢炎、イレウスなど)も多い。

若手にチャンスが巡って来る機会が多い。

実際、3年目から執刀してます。開腹症例は基本若手に巡ってきます。

経験豊富な指導医が多く、指導体制がしっかりしている。

困ったら相談しやすい指導医が教えてくれます。

センター制であるのでスムーズな患者の共有が可能。

# 当センターで経験した手術(3年目)

術式	執刀数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	75
腹腔鏡下虫垂切除術	18
総胆管切開碎石術	2
幽門側胃切除術	2
大腸手術(開腹)	3

他にもヘルニア、イレウス  
入局1年間で約**100**件執刀  
うち、緊急は25件

# 当センターで経験した手術(5年目)

術式	執刀数
腹腔鏡下結腸切除	8
開腹結腸切除	16
腹腔鏡下胃切除	7
開腹胃切除	12
直腸手術	3

他にもヘルニア、イレウス、ストマ、胆嚢摘出術  
入局3年間で約300件以上執刀







腹壁神経腫瘍の診断

症例

病歴

検査

検査結果

病理診断

はじめに

本症候群は、四肢、顔面に分布する多発性神経腫瘍を特徴とし、全身に多発する神経鞘腫の形成を伴う。

本症候群は、遺伝的に発症し、家族性神経鞘腫候群の一種として知られる。発症年齢は通常10歳未満である。

・デスモイド腫瘍は、筋腫や腫瘍より発生する結核性腫瘍の一つであり、組織、広度に関するデスモイド腫瘍の報告は少ない。

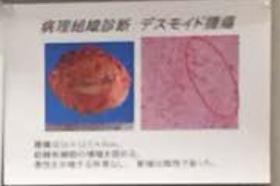
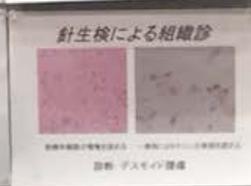
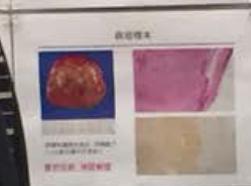
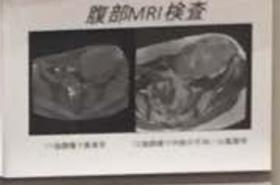
・今回我々は、結核を契機に発症し増大を認めた腫瘍デスモイド腫瘍の症例を経験した。

19歳 男性 167cm 58kg

主訴 腹部膨満感

経緯 結核治療中、腹部膨満感、食欲不振、体重減少、下腹部に圧痛の多発を認め、腹部超音波検査、腹部造影CT検査、腹部MRI検査を施行し、経過観察中である。今回、結核が完全治癒した上で、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発し、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発した。

腹部膨満感、食欲不振、体重減少、下腹部に圧痛の多発を認め、腹部超音波検査、腹部造影CT検査、腹部MRI検査を施行し、経過観察中である。今回、結核が完全治癒した上で、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発し、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発した。



腹部膨満感、食欲不振、体重減少、下腹部に圧痛の多発を認め、腹部超音波検査、腹部造影CT検査、腹部MRI検査を施行し、経過観察中である。今回、結核が完全治癒した上で、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発し、1ヶ月経過後に腹部膨満感が再発した。

考察

・我々の症例はデスモイド腫瘍の診断に、結核を契機とした。本例では結核治療が完了したにもかかわらず、腹部膨満感が再発した。

項目	内容
年齢	19歳
性別	男性
病歴	結核治療中
主訴	腹部膨満感
検査	腹部造影CT、腹部超音波検査、腹部MRI検査
手術	腹部腫瘍切除術
病理	デスモイド腫瘍

・腫瘍発生は11例目で全てで多発性であった。1例は結核治療後に発生し、腫瘍による炎症が出現したため結核性腫瘍と診断された。

・結核治療後、結核中絶に伴って増大を認め、腫瘍については結核性腫瘍、炎症性腫瘍と診断された。

・デスモイド腫瘍では結核治療による炎症が原因となるという報告があるが、本症候群の発生機序は不明である。

・MRIによる診断では、腫瘍は通常T2強調画像で高信号を示す。本症候群では、結核性腫瘍の発生を伴った場合、結核性腫瘍と診断された。

総括

・今回我々は、結核を契機としたデスモイド腫瘍を経験し、報告した。

謝辞

私の今回の発表に関して、誠にありがとうございました。







消化器センターで共に頑張ろう

